



関本町西区の口ケ地に案内板

映画「フラガール」

観客動員数
50万人突破

いま公開中の映画『フラガール』の観客動員数が50万人を突破したそうです。40年前の常磐ハワイアンセンター(スパリゾート・ハワイアンズ)が舞台です。フラダンスショーを取り入れるため、東京の一流のダンサーが呼ばれ、炭坑の娘達が初めてのダンス

の練習に励んでいくという実話が元になっています。炭坑の過酷な労働。そういう地域と時代を背景に、熱心に練習を積み、プロとして舞台上立つまでの彼女たちの成長と、影を背負いながらも自立して生きようとしているダンス教師との人間模様が、フラダンスの軽快なリズムと時に哀愁を帯びたメロディにのせて描かれます。

地元の観客としては、方に耳をそばだてる場面もあります。当時の暮らしを彷彿とさせる長屋風景や食堂、田んぼの畦道や木橋など、懐かしい風景がいっぱい出てきます。フラダンスの魅力たっぷり、若い女優さん達の努力も重なって見えてくる、楽しくエネルギー溢れる映画でした。どうぞハンカチをお忘れなく。

「かぐや姫」のメンバーである山田パンダ氏。ギター片手に、ご自身の保育助手の体験を交えながら、素朴に軽やかに子ども

「新しい僕」を歌った大塚利恵さんは北茨城市平潟町出身のプロ歌手です。公式サイトは、<http://www.conisis.com/rie/>

高萩・北茨城広域工業用水道企業団 きびしい経営状況 市財政を圧迫

9月27日に高萩・北茨城広域工業用水道企業団の議事が開かれ、昨年度の決算状況等が報告されました。それによると、現在の受水企業は15社で、契約水量は日量6679トン。契約率は44・5%にとどまりました。未売水による収入不足から、累積欠損金は約13億6620万円に達し、きびしい経営状況が浮きぼりになりました。

同企業団の経営資金として北茨城市2515万円、高萩市1648万円、合わせて4163万円を補助。さらに40億円を超える企業債(小山ダム建設負担金や施設建設など)を償還するために、昨年度も1億5182万円(北茨城市1億0476万円、高萩市4706万円)を出資金、補助金の名目で支出し、両市のきびしい財政をさらに圧迫する形となりました。

同企業団議員である福田明議員は「現状のまま推移すれば、北茨城市だけでも、あと30年、40年と毎年1億3千万円近い予算を投入しなければならぬ。市財政に与える影響は甚大である」と指摘。企業長である村田市長も「売水状況が増えなければ、そういうことになる」と、その懸念を認めました。

同事業団の独自の収入減は「水を売る」以外になく、新たな揚水型の工場が誘致されないと、経営の改善は見込めないのが実情です。それだけに、経済状況を無視してダム建設を推進してきた県と歴代の両市政の責任は重いものがあります。



日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2
43-0468(福田)
42-2462(鈴木)

毎週日曜日発行

お問合せは上記へ

ご相談はお気軽に



市議会議員
鈴木やす子
☎42-2462



市議会議員
福田 明
☎43-0468

「北茨城民報」のバックナンバーはインターネットでもご覧いただけます。
<http://www.jcp-ktib.com/>

編集部では身近な情報をお待ちしています。

まなびピア いばらき 2006

第18回全国生涯学習フェスティバル「まなびピアいばらき2006」が10月5〜9日に開催されました。



その一環として、7日には日立市十王町のJホールで、「生命の尊さを見つめよう」と題する講演とミニコンサートが開かれました。講師は、つい最近、31年ぶりで伝説のコンサートを開いたフォークグループ「かぐや姫」のメンバーである山田パンダ氏。

私たちのこと、自分たち大人のことを語りました。『生命の尊さ』とは、街角に子どもたちの元気な声が響いていること、そういう状況がちやんと保障されていること。大人たちが自信を取り戻し、連帯感が必要とよびかけました。

なお、まなびピアのイメージソング「新しい僕」を歌った大塚利恵さんは北茨城市平潟町出身のプロ歌手です。公式サイトは、<http://www.conisis.com/rie/>